

《もくじ》

- 特集：“原子の灯”を消し去る関
～危険に満ちた「東海第二原発」再稼働
阻止へ結集～
2頁・東海第二原発の再稼働は止めら
れる……相沢 一正(脱原発とうかい塾)
- 3頁・巨大地震でメルトダウンの危険性
……大石 光伸(東海第二差止訴訟原告団)
- 11頁・映画「いのちの岐路に立つ」を見て
東海第二原発の再稼働を止めよう……
…花山 知宏(さよなら原発いばらぎネットワーク)

奔流

題字揮毫・梅原猛

《第27号》

- 発行
千曲川・信濃川復権の会
〒184-0012
東京都小金井市中町2-5-13
FAX・TEL 042-381-7770
- 発行人・市川 久芳(共同代表)
- 編集人・矢間秀次郎(正会員)
- 干振替・00120-0-710488

大河の一滴 (27)

放射能は低線量被ばくでも遺伝子破壊の危険 福島原発トリチウム汚水の放出は許さない

児玉順一(こだま医院)

(1) ペトカウ効果からの出発

私は埼玉県のときがわ町で内科の診療に従事しています。福島原発事故でござい、放射能の勉強をはじめました。

私の勉強の出発は、「細胞膜が被ばくで生まれる活性酸素によって障害されることを示したペトカウ効果です。さらに、スタンディングス氏はこれを応用して、「学力低下や免疫力の低下(エイズ)の発生にも放射能汚染がかかわっていることなどを示しました。みんな細胞膜の障害が原因です。

二人の発見にならって放射能汚染地域を追うと、癌以外にもたくさん病気―肥まんも糖尿病も、動脈硬化も心筋梗塞も、老化も認知症も…あらゆる種類の病気がふえていたのです。

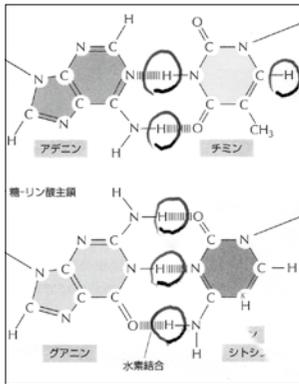
(2) 世界の放射能汚染

広島原発の3万5000発分といわれるほどの核実験で、世界中が汚染されてしまいました。原発の稼働でも、原発事故でも、核燃料廃棄物の海洋投棄でも汚染が上塗りされてしまいました。これほどの放射能汚染をかさねても、

核実験や原発の推進者たちは、「放射能は空や海がうすめるから無害」といい続けました。「低線量なら大丈夫」が彼らの唯一の理論的根拠でした。

(3) 「低線量は大丈夫」のうそ

① 原発投下直後の広島で、「爆心地から2キロの円」を描きました。2キロ以内にいた人には被曝者として被曝手帳を交付。2キロ以上は交付なしでした。低線量は無害という理屈で、これがはじめての低線量被ばく無害論でした。もちろん、2キロ以上はなれていた人にも病気が出たし、多くの人が亡くなりました。「入市被曝」といつて、原爆投下の後に広島に入って出血などで亡くなる人たちもいました。治療にあたり



▲遺伝子DNAの模型図。

た肥田舜太郎医師は、「それこそが低線量被曝ばく」と、スタンディングス氏に教えられてはじめて知ったそうです。

② 今緊急にお知らせしたいのは、「トリチウムは無害で、海にも捨てられる」といううそです。このうそを根拠にして、国も東電も、福島事故現場にたまり続ける120万トン、東京ドーム二杯分のトリチウム汚染水を太平洋に投棄しようと狙っています。

彼らはトリチウムの放射線は遠くへ飛ばないしエネルギーも小さい、だから害はない、と人々をながい間だまして、原発からも、再処理工場からも、海へ空へと放出し続けてきました。

ところが、イギリスの再処理工場の近くの村で白血病の子どもが7人も見つかかり、カナダの原発や玄海原発の周辺でも、白血病がふえています。

そもそも、トリチウムは放射能をおびた水素です。ふつうの水素は細胞のなかでたくさん使われ、遺伝子のなかでも使われています。上掲図の、丸で囲んだHがふつうの水素ですが、トリチウムも遺伝子の中にはいり、このHとすり替わって放射線を放ち、遺伝子を傷つけて、細胞に癌化をおこします。遺伝子への自爆テロです。生命にとって一番危険なトリチウムを無害というおおうそ、許してはなりません。